

三鷹市農業振興計画2027(素案)に係る市民意見への対応について

【凡例】

- [1件] ①計画に盛り込みます・・・・・・・・意見概ね提案どおり又は趣旨として盛り込むもの
 [4件] ②事業実施の中で検討します・・・・・・・・計画へ盛り込まないものの、事業実施段階で判断するもの
 [8件] ③既に計画に盛り込まれています・・・・・・・・既に意見が計画に盛り込まれているもの。既に意見の趣旨が計画に反映されているもの
 [0件] ④対応は困難です・・・・・・・・趣旨の反映を含め計画に盛り込むことが困難なもの

パブリックコメント提出状況

人数： 3名
 件数： 13件

※パブリックコメントによる市民意見については、一部抜粋又は意識して掲載しています。

No	該当ページ	該 当 部 分	市 民 意 見 ※	対 応 の 方 向 性	
1	p. 4	① 全般：達成指標	農業振興計画2027の達成指標の一覧が必要と考える。本計画の達成指標なのかわからない。上位計画である三鷹市基本計画の「都市農業の項にある3つのKPI」だけが本計画の達成指標なのか。	①計画に盛り込みます	基本計画に記載している3つのKPIの他、農地戸数、認定農業者等の経営体数を目値として定めており、これら本計画内に定める数値的目標について、一覧を作成します。
2	p. 34	推進体制の整備等	農業と商工業の連携強化が重要であり、その旨を記載したほうがよいのではない。厳しい環境にある都市農業の衰退を抑えるためにも両計画の強い連携等の必要性を記載したほうが良い。	③既に計画に盛り込まれています	ご意見の趣旨については、p. 29第2章3（3）⑦異業種事業等との連携に含まれています。
3	p. 25	生活環境と調和した農地の保全	生活環境と調和した農地の保全は、都市型農業において大変重要な項目である。これがうまくいっているかどうかの判断は、農地面積以外にどのような指標/目標で管理するのが適切と考えているのか。その指標/目標を記載したほうがよいのではない。	③既に計画に盛り込まれています	農地を維持管理する農家数やその中でも経営的な取組を行う認定農業者等の数、そして地産地消の主体となる直売所数を指標としています。
4	p. 27	持続可能な農業経営、地産地消の推進	農業後継者数は単調減少であり、このまま推移すると三鷹市基本構想の目安である2050年頃に「活力のある都市農業」が維持されないのではないか。本計画は2027年までの短期の計画だが、長期的視点にたった新たな取り組みを推進する必要がある、その旨を記載したほうがよいのではない。	②事業実施の中で検討します	本計画は、上位計画である第5次三鷹市基本計画の計画期間の令和6年度から令和9年度までの4年間に合わせていますが、農地の保全・活用の取組をはじめとするほとんどの農業施策事業は、計画期間内で完結できるものではなく長期的な事業と認識しています。
5	p. 31	市民と農のふれあいの推進	「市民と農の直接的なふれあい」はもちろん大切ですが、今はネットワーク社会であり、ICT技術を導入した“ふれあいの場”も検討すべき考える。例として、「直販所の情報」や「地域通貨的なコミュニティ」による連携や支援などICT技術を導入したふれあいの場合は、農の広報の場としてもとても有効に活用できると思う。	③既に計画に盛り込まれています	庭先販売所情報発信でのICT技術活用は、P. 29第2章3（3）④で記載しています。また、農産物直売における地域通貨活用については、現在、取組が進んでいます。
6	p. 25	(1)～③相続税等土地税制に関する国等への要望	相続対策で、この数年で農地が減ってきたと感じる。引き続き要望を国にあげていくとともに、市民への理解を深めるようにすることが必要である。	③既に計画に盛り込まれています	p. 25第2部第1章「農地の保全と利用の推進」の施策の展開において、相続税等土地税制に関して国等へ要請することとしています。
7	p. 32	(2)農業体験の推進 ④コミュニティ農園設置の検討	コミュニティ農園は、市民どうしの交流が生まれ、中高年は農作業などをするによりフレイル予防も期待できる。子育て世代は親子で豊かな体験ができ、食育教育も期待できるので、是非開園してほしい。	③既に計画に盛り込まれています	p. 32第2部第3章「市民と農とのふれあいの推進」の施策の展開において、コミュニティ農園の設置について、検討することとしています。

No	該当ページ	該 当 部 分	市 民 意 見 ※	対 応 の 方 向 性	
8	p. 32	(2) 農業体験の推進 -④コミュニティ農園設置の検討	コミュニティ農園では、焼却される落ち葉などを集めて腐葉土にしたり、生ごみなどをコンポスト化し堆肥作りを推進すると地域資源循環になり焼却するしかなかった落ち葉や生ごみを資源として有効に利用出来るようになるのではないかと。	②事業実施の中で検討します	p. 26第2部第1章「農地の保全と利用の推進」において、環境保全型農業の推進を図ることとしています。コミュニティ農園を検討する際についても循環型農業の推進を図り、検討していきます。
9	p. 24-p. 26	(2) 環境保全型農業の推進、⑤気候変動による影響の把握	気候変動による影響の把握部分について、適応策だけでなく対応策なども記載してはどうか。 *参考 農林水産省令和6年「農業分野における気候変動・地球温暖化対策について」	②事業実施の中で検討します	農業施設のヒートポンプ設備の導入を東京都補助制度を活用した補助事業で支援した経過があります。気候変動による影響の対応策については、事業実施の中で検討していきます。
10	p. 25	第2部各論3施策の展開(1)の②、③	相続があっても農地が農地のまま存続できる制度ができるように国等への働きかけをお願いします。	③既に計画に盛り込まれています	p. 25第2部第1章3(1)③において、相続税等土地税制に関して国等へ要請することとしています。
11	p. 24	農地の保全と利用の推進について	都市農業は地産の農産物供給の他に防災、景観形成、農業体験、学習の場など生活環境を豊かにするとあるが、そのほかにも都心のヒートアイランド現象を和らげることが知られている。農地や生産緑地があることでその周りの住宅地では気温上昇を抑える効果があることを挙げて、三鷹の農地や緑地の重要性を挙げるのはどうか。 *参考 国土交通省平成15年「緑地保全と緑化の推進によるヒートアイランド現象緩和効果について」	③既に計画に盛り込まれています	都市農業が発揮する多様な機能の一つとして、都市の緑として、雨水の貯留・浸透、地下水のかん養、生物多様性の保全等にする国土・環境の保全の機能があることから、第2部各論第1章3(1)生活環境と調和した農地の保全④に都市農地・都市農業が持つ多面的で公益的な機能の一つとして、ヒートアイランド現象の緩和も含めた趣旨で、環境保全を記述しています。
12	p. 31	市民と農とのふれあいの推進	市民や子どもたちとの農体験は持続可能な地産農産物の大切さを学ぶとてもよい機会だと思います。ぜひ進めてください。	③既に計画に盛り込まれています	p. 31からの第3章の中で市民と連携した都市農業を目標とし、市民が農とふれあえる取り組みの推進を進めていきます。
13	p. 25	農地の保全と利用の推進について	生産緑地内直売所や農家レストランの設置も可能になったと聞きます。それらの屋根に防災対策の一つとしてソーラパネルを設置するのはどうでしょうか。農地の多面的機能が市民にも伝わると思います。	②事業実施の中で検討します	農地内での再生可能エネルギーの利用が可能となり、東京都が既存の農業用資材庫の屋根等へのソーラーパネルの設置の補助制度を創設しましたが、売電制限や建築基準法等の関係法令などの制約が多いことから、今後の動向を注視し、事業実施の中で検討していきます。